

二之湯智防災等担当大臣御来館

二之湯内閣府特命担当大臣（防災、海洋政策）、国家公安委員会委員長、国土強靱化担当、領土問題担当、国家公務員制度担当）が、4月10日に和歌山県の防災・国土強靱化施設の視察の際に、「稲むらの火の館」にお立ち寄りいただきました。当日朝、関西空港に到着の後、「和歌山下津港」「稲むらの火の館」「田辺会津川津波避難タワー」「防災道の駅すさみ」「串本町役場」を視察され、夕方の白浜空港から帰京されるという、非常にハードなスケジュールでした。

そうした中でも、「館」では3D映画1本を観賞、「津波シミュレーション」での波の様子と現在の広川町の津波高想定9mを見上げて、館長のご説明にうなずかれていました。

「濱口梧陵記念館」では広村堤防築堤のジオラマでご説明の後、安政津波6年後の広村復興の絵図の前では「津波から6年で復興することが出来たのですね。」と少し驚きながら感想を述べられました。



広川町は、西岡町長、中平副町長、池田教育長、西名誉館長等、和歌山県の河野危機管理局長がお出迎えしました。

毎年、どなたかの大臣が御視察にお立ち寄りいただく「稲むらの火の館」はたいへん光栄なことですが、同時に防災啓発の責任も感じます。

新型コロナ対応最前線から

前項で報告しました二之湯大臣御来館の際に、内閣官房国土強靱化推進室の小松参事官から各種のご連絡をいただきました。また、前日の9日に先乗りされ、「館」の館内見学の後、「広村堤防」や「耐久社」「東濱口公園」をご案内しました。

小松参事官は、元々内閣府防災担当をされていたということです。町内の街歩きの途中、お話を伺いました。熊本地震では前震直後に自衛隊機で現地へ向かい、

2日後の本震を体験したそうです。その参事官から、大臣

帰京後にお礼のメールをいただきましたが、令和元年12月に日本で初めてコロナの感染者が確認され、翌2年2月1日から最前線へ派遣された記録をいただきましたので概要を掲載させていただきます。

中国武漢市から帰国した191名が、千葉県「勝浦ホテル三日月」で14日間待機されたようです。この待機者の支援をされたということです。

三食の配布も、待機者と支援者が直接接触できないため、部屋の前に置いて本人が取り込みます。

参事官は、これまで災害時の避難所支援の経験もあったそうですが、それと違うのは待機者は室外へ出られない。だから、ホテルにある洗濯機を使えない。各部屋の風呂場・洗面所で洗う以外の方法はないということです。シーツの交換はどうしたのでしょうか。突然の帰国ですから、2週間分の着替えも持っていなくて、支援事務局で用意をされたそうです。ただ、この時の待機者は感染者ではなく、部屋から家族等に連絡することができたので、荷物は送られてきたそうです。

私達は、ニュースで感染拡大を防ぐためには、“政府は水際対策をする”ということに当然のように受け止めていました。しかし、その水際の対応はたいへんなことだったのです。



百世安堵

関西大学社会安全学部 近藤誠司

第14回 防災の主役、人生の主人公

大手の児童書の出版社から、防災副読本シリーズの監修を依頼されて、ようやく日本全国の小学校図書館に納める段取りができた。こどもたちに伝えたメッセージの一部を、ここに再掲しておく。

～ 防災は、みなさんの夢や希望を実現するための土台となるものです。災害が起きて、何もなすすべがなかったとしたら、みなさんの夢や希望は、すぐに吹き飛んでしまう、押し流されてしまうかもしれません。でも、防災をすすめておけば、ひとたび中断したとしても、またやりなおすことができるはず。たとえ被害が出てしまったとしても、そこで心が折れなければ、やがて前をむくことができる。みんなと手をたずさえて歩み出すことができる。そうした力をやしなうことも、防災のいとなみのひとつです。

ここでもうひとつ、考え方を“足し算”しておきましょう。いろいろな取り組みは、かならず「防災」につながります。絵が得意な人は、避難所のかべにすてきな絵をかざってほしいと思います。歌が得意な人は、災害で傷ついた人を歌ではげましてほしいと思います。あそぶことが得意な人は、被災地で不安そうにしている小さいこどもを元気づけてほしいと思います。算数が得意な人は、将来、じょうぶな建物をつくるための計算をしてほしい。国語が得意な人は、将来、災害の教訓をわかりやすく学べるような文章を書いてほしいです。どんなことであっても、防災に、かかわることができます。みんなが“プラスアルファの発想”で、得意なことを防災にもつなげてくれると、世の中が変わります。

みんなは、みんなの人生の主役です。だからもちろん、防災の主役でもあります。だれかに防災をまかせておくのではなくて、自分なりの方法で、プラスアルファでよいので、できるかぎりの取り組みをすすめていきましょう。

<お客様の声>

1、先日、NHKのスタジオで菊地まどかさんの浪曲「稲むらの火」を聞きました。

「稲むらの火」の事はあまり知らなかったけれど、こちらへ来たので寄りました。

(こんなに言われたお客様がおられました。さっそく、菊地まどかさんの所属事務所三栄企画へ報告しました。)

三栄企画斉藤さんからは

「貴信拝受しました。ご連絡ありがとうございます。少しずつですが、まどかを通して「稲むらの火」が広まって嬉しい限りです。これからも頑張ってお参ります。どうぞよろしくお願ひ致します。」

という返信をいただきました。

2、創意社・山口幸正氏から取材を受けました。

(一般社団法人)日本監督士協会の月刊「リーダーシップ」4月号に「新・改善改革探訪記」「稲むらに火をつけ人々を津波から救った商人濱口梧陵翁の事績を訪ねて」として掲載されました。掲載紙は稲むらの火の館にありますので、興味のある方はお越しく下さい。

同時に「創意社」のホームページにもアップされていますので、下記のホームページアドレスでご覧いただけます。

www.souisha.com/tanbouki/tanbouki249.html

[町内各種団体の防災研修について]

最近、全国的に震度4程度の地震が起っています。南海トラフ地震に近づいているとも言われています。避難対策は大丈夫でしょうか。

広川町内の各種団体の皆さまで、町が認めた団体(町の補助団体)が防災研修をされる場合、1年に1回は、「稲むらの火の館」へ無料で入館することができます。それぞれの団体で、どういう防災研修をするのかをご相談ください。できるだけ対応とご支援をさせていただきます。また、研修会の際に必要な資料等についても、印刷も含めてご相談ください。 電話 0737-64-1760